

環境学習・教育検討小委員会(第2回)でいただいた主なご意見と対応案

I 方針の基本的事項

No	主なご意見	対応案
1	地球上における人間の存在がどういう意味を持っているのか、その議論が全然出てこない	方針策定の背景・趣旨を修正
2	人口減少、少子高齢化がマイナスに向かうイメージだけではなく、改善できるチャンスが来たという書きぶりにしてもいい	方針策定の背景・趣旨に「人口減少時代における価値観や生活環境の変化も捉えつつ…」と追記
3	文章を補完する図があれば全体像として分かってくる	「図 方針の構成」を追加

III 兵庫県の現状と環境学習・教育の実施状況

No	主なご意見	対応案
1	実施状況も「幼児期」を「乳幼児期」に統一してはどうか	「乳幼児期」に統一
2	県民局以外に市町がやっているものも例示して取組が幅広く見えるようにした方がいい	「表 県内各地域の特徴的な取組例」には県・市町・地域団体等が連携した広域的な取組を記載
3	ジオパークの活動を取組例に入れるといい	取組例にジオパークを記載及びIV原則3①「…「山陰海岸ジオパーク」など、地域ぐるみで…」と記載
4	文章が人口減少から始まっているが、環境学習の目的は総合的なものであり、担い手づくりに収斂してしまうような書き方はいかかがか	3(1)「今日の複雑で多様化した環境問題の認識を深めるためには…」と修正
5	都市と農村の交流と環境保全・創造活動の必要性が繋がらない。森・川・海とか、つながりとしての都市と農村の関係を散りばめるとよい	3(3)「本県には都市と農村が共存している…」と追記及びV2(4)イ(エ)「県下の森・川・里・海のつながりを通じた地域間交流…」と追記

IV 環境学習・教育のあり方

No	主なご意見	対応案
1	「こころ」を育むことが前提なのか、環境学習・教育から入って結果として「こころ」の醸成につながるのか	環境学習・教育が前提となるよう、基本的考え方の原則1の記述を修正
2	人と人との関係の中で環境問題が発生するので、人と人のつながりは根幹のところ	原則1①「環境学習・教育により命のつながりや人と人、人と環境のつながりを学ぶことで、命を大切に思う心を育み…」と修正
3	目の前の命より、命のつながりやそれを育む環境のありようを実感するような命のとらえ方が必要	原則1①「日本では、古来より自然への畏敬の念を持ち…」と追記
4	元々日本人が持っていた自然崇拜、基礎的な概念なども大事	原則1②の副題を「生物多様性の理解」とし、本文に「生物多様性の重要性を理解…」と追記
5	生物多様性という言葉や考え方が入っていない	原則1②「自然の素晴らしさとともにこわさを正しく理解し…」と修正及び原則1④「…防災の要素を盛り込んでいく」と追記
6	防災が入っていない。人間にとっての自然のプラス面とマイナス面の両方の視点を入れていくことがこれから重要になる	原則1④に地域理解の要素を盛り込むとともに、3(7)シニア世代の役割に「地域理解を促進する役割…」と追記
7	地域理解の要素も入れていただきたい	原則1④「環境問題の理解にあたっては…私たちの日々の生活と環境のつながりについても学習する必要がある」と修正
8	自分たちの日々の暮らし方が社会と関わっていることを視野に入れる方が大事であり、環境価値を身につけることで社会制度の変革までを視野に入れる	原則1⑤「それらの要素を関連づけ、環境を総合的…」と修正
9	発展学習ではなく、総合的に学ぶことそのものが大事であると表記すべき	

10	原則2は必ずしもこの順番で学んでいくものではなく、この4要素が必要であるという書き方をしないといけない	原則2の見出し「プロセス」を削除及び本文「現場体験…の継続的プロセス」を削除し、「学習段階に応じ」と追記。また①～④の記述を修正
11	発達段階が非常に重要で、まず知識を得る前に感動してほしい	
12	つながりというところでピア・サポートという言葉を入れてはどうか	原則2④「学習者同士の協働など「つながり」を大切にしたい取組も必要」と追記
13	阪神・淡路大震災だけではなく、丹波や佐用の水害のことも入れておかなければいけない	原則3③「阪神・淡路大震災や風水害等の自然災害」と修正
14	高校生では単に学ぶというよりは交流して意見交換もでき、そのことが協働に繋がる。県立尼崎小田高校などの取組例をぜひ入れてほしい。	3(4)高校生「…環境保全・創造活動に主体的に参加し、地域との協働を通じて…」と修正及び県立尼崎小田高校などの取組例を囲み記事で追加
15	社会人世代とシニア世代を学ぶ側と支える側で整理してはどうか	3(6)「社会人世代」及び(7)「シニア世代」の記述を整理
16	社会人世代やシニア世代は、人間と地球、身の回りの環境との関係をよく理解してもらわないと次世代に語れない	3(6)社会人世代及び(7)シニア世代に「環境問題を正しく理解し…」と追記
17	社会人世代に期待することとして、乳幼児等が自然体験や環境学習の場に接する機会を作してほしい	3(6)社会人世代「地域の美化活動、植林、自然観察などに子どもたちが接する機会を設け…」と追記
18	伝えるというのは「伝承」という言葉の方がはつきりと意思があってよい	3(7)シニア世代「…次世代に伝承する」と修正
19	世代間の継続性や多世代交流をシニア世代の下にもう1回繰り返して記載してもよい	3(7)シニア世代「多世代交流を通じて…」と追記

V 環境学習・教育の推進方策

No	主なご意見	対応案
1	「五感」に「歩いて」も入れて「六感」でどうか	「五感」が定着していること、「六感」は「第六感（靈感）」を想起させることから現表記を維持
2	自然学校に転機が来ており、環境学習の中にあえて入れ込んででも質を上げていく必要がある	今後の施策実施に当たり考慮
3	基本方針としては新たな施設整備ということもあっていいのではないか	2(3)ウの見出し「…施設の整備・充実及びネットワーク形成」と修正及び本文「…整備・充実に努める」と修正
4	ネットワーク形成で、分野のつながりも大事だ	2(3)ウの本文「…分野間をつなぐネットワークの形成を図る」と修正